
バクフーン先生とKaryu先生へのインタビュー記事

ポケポケパン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バクフーン先生とKaryu先生へのインタビュー記事

【Nコード】

N1897I

【作者名】

ポケポケパン

【あらすじ】

はじめまして、ポケポケパンというものです。今回はポケモンファンフィクション作品の中でもトップを飾る有名なバクフーン先生とKaryu先生に突撃インタビューさせていただきました。どうぞ、お楽しみください。

皆様こんにちは、ポケポケパンという者です。

タイトルを見ていただきました通り、これは小説などではなく、自分個人がバクフーン先生とKaryu先生の協力と許可を得たうえでインタビューをさせていただきました。

お二方には再度御礼申し上げます。

私事ではございますが、自分が小説を書いたことなど一切ございません。常に読者側としてさまざまな小説を拝見させていただきました。ですが、自分もなにかをこのサイトに残したい……そう思ったものの自分に小説を書くような能力などない。その為、自分が小説以外に知りたいこと、読みたいもの、それは作者さんの日常など先生方が執筆されている裏側の背景など、そこに興味がわいてきました。

そしてポケモンの小説にはまりにはまり、ポケモンと検索をして総合評価を現時点でトップであるバクフーン先生とKaryu先生にインタビューしたいと思った所存です。

今回の企画は「小説家になろう」サイトのリニューアルと、四半期に分かれている評価点数の入れ替わりもきっかけの起因となります。そして個人的にKaryu先生の「ポケットモンスター神々の奇跡」が完結したというのもあります。

さて、前置きが長くなってはしまいました。ここからは Brett 方式で最初に私が出した質問、そしてバクフーン先生とKaryu先

生の回答を順番に記載しています。

それではどうぞ。

・この「小説家になろう」サイトをどうやって知りましたか？

バクフーン先生

「この小説家になろうは偶然見つけました。その当時は他のサイトでポケモン小説を読んでいたのですが、他にもポケモン小説があるサイトは無いのかな？ って思って、探していたらこのサイトを見つけた……こんな感じです。」

Karyu先生

「他の小説サイトのリンクから見つけました。えーっと、そのサイトの名前を忘れちゃったんですけど；；でも、まずはそこからはじめましたね。」

・このサイトではまずは読者に、あるいは作者になりましたか？

バクフーン先生

「まずは読者からでしたね。」

Karyu先生

「このサイトでは作者からでしたね。ポケモン小説を書く前はオリジナルを書いていたので……それに、まあ小説を書いたからこそこういうサイトを知ってびっくりしたってのもありますけど。」

・小説を書くこうと思ったきっかけはなんですか？

バクフーン先生

「きっかけはそうですね……当時のこのサイトにはポケモン小説があまり無く、僕好みが無かったんですよ。だったら、自分で好みのストーリーを書いちゃおうか？ こう思ったのがきっかけです。」

Karyu先生

「小説を書くきっかけは、アメリカに引っ越してきた時にパソコン

があってもインターネットも住む所もままならない状態で、暇で暇でしようがなかったのでワードを開いて小説を書いてみようかな？的な感じではじめましたね。」

・キャラクター達を初めて登場させる時に気をつけている、あるいは気を使っている点はなんですか？ それと一番設定を考えるのに苦労したキャラクターと一番楽しかった・あるいは楽しかったキャラクターはいますか？

バクフーン先生

「うーん……初めて登場させるキャラは、なるべく空気にならないようにしてますね。

設定を考えるのに苦労したのは、バクフーン達の冒険に登場するヒードランですね。

一番楽しかったのは主人公のバクフーンです。」

Karyu先生

「はあー、今考えれば俺は何も気を使わずにキャラクター作ってましたね。自分の脳内でぼっぼつと浮かんでくるキャラクター達が自由気ままにやってくれるので、そういうのを尊重してますね。気の使い方が間違ってるかもですけど……一番楽しかったキャラはやっぱリリウですね。苦労したのは……レンですね。なんだか設定を一番変えまくっちゃったキャラなので……」

・同時にいくつもの連載をなされていますが、投稿・執筆する順番はあるのですか？

バクフーン先生

「順番はバクフーンから始まって、タクミ、アスカ&レオン、ピースという順番でやっています。」

・ポケモン小説の他にも多数のオリジナル作品を手掛けていますが執筆する順番はあるのですか？

Karyu先生

「そうですね……一つの作品を手掛けてハマっちゃうとそれ一筋になっちゃうんで、いろいろと今は連載小説は筆を置いていきますね」

・ポケモンを題材としたファンフィクション作品を書こうと思ったきっかけ、あるいは理由はなんですか？

バクフーン先生

「やはりポケモンが好きだからですね。」

Karyu先生

「なんででしょうね……ポケモンの小説はオリジナルの作品の方でスランプの時に気分転換として読んでいましたね……それと意欲心が湧き立てられたってのもあります」

・スランプの時期があったと思われませんが、その時はどういった風に考え、あるいは過ごしていましたか？

バクフーン先生

「スランプになった時は一度小説を書くのを完全に止め、ゲームやら僕の好きな事をやるようにしています。」

Karyu先生

「うーん、スランプになった時はとことん書きます……。書いて書いちゃいますね……。紙に書いて、いろいろ自分自身にだぶってその内抜け出していますね」

・思い入れの一番ある話、あるいはキャラクターはありますか？（全てにおいて思い入れはあると思われませんが、一つや二つに絞っていただくと助かります）

バクフーン先生

「思い入れのあるキャラ……やはりバクフーンですね。一番好きなポケモンですし。」

Karyu先生

「思い入れのある話は……ヨスガ大会の惨劇でしたね……あの回は、というかポケモン小説の中では結構なぐらい残酷でグロい展開だったんで。まあ、俺のオリジナルの方がもつとグロいですけどw
あと思い入れのあるキャラはアヤノかもしれないですね。アヤノの人気に嫉妬しましたしww」

・執筆中に欠かさないものとかはありますか？（例：音楽を聴きながら、何かを食べながら、何かを呑みながら、寝転がって、テレビを見ながら、雑誌・本を読みながら、etc）

バクフーン先生

「執筆中はポケモンの音楽を聴きながらやっています。主に映画の主題歌です。」

Karyu先生

「音楽も聴きますし、アニメ見てアイデアもらいますし、まあ、ながら執筆ですw」

・他のポケモンファンフィクション作者さん達のことを意識して、あるいは刺激されて自分の従来の小説に変更を加えたりはしましたか？

バクフーン先生

「意識したとしたら、ハーブさんにLinnoさんですね。どちらもポケモンの会話が面白くて見て笑ったりしますから、自分も見て笑える会話とかそういうのを書けたらなと思っています。」

Karyu先生

「刺激されたのはやっぱりゆ〜すけさんとハビトさんですね。あのお二人の小説を読んで俺はポケモン小説を書くかと思いましたがね。特にゆ〜すけさんのストーリーには一目惚れでした（特にランにw）。そしてハビトさんの小説からは俺のポケ神で重視している日常らしさを参考にさせてもらいました。本当にお二方には感謝をしつくしてもしきれません」

・好きなポケモンベスト5を教えてください。

バクフーン先生

「バクフーン、ブイゼル、ラティアス、イーブイ系、ルギアです。」

Karyu先生

「メリープ、ピカチュウ、ニドリーノ、リザードン、サイホーン」

・今までにやったポケモンに関するゲームを教えてください。あるいは、ポケモン商品（マンガ、フィギュア、グッズ、etc）に関する体験談も教えてください。

バクフーン先生

「ポケモンのゲームは全てプレイしてます。」

Karyu先生

「ゲームはゲームボーイ時代のは全部やりましたね、ピンボールもカードゲームもしましたし。でもそれ以降は本当にバラバラですね、やってないシリーズも増えましたし……それにゲーム機種が増えたのも問題ですけど；； マンガはスペシャルをあつたら買うといった感じで全部は知らないです。あ、それと自慢できるとしたらフィギュアじゃないですけど未だにポケモンのガシャポンを見つけたら買ってます。そのおかげでガシャポン数が500体くらいになりますね。」

・最後に、先生にとってポケモンとはなんなのでしょうか？

バクフーン先生

「僕にとってポケモンは癒し系ですね。」

Karyu先生

「アイドルですね。一生涯飽きることのない、アイドルです」

以上がインタビューの結果となりました。

先生お二人のお話を聴いていると、本当にお二人はポケモンが大好きなのだということが良くわかり、自分では到底敵わない愛を感じました。

バクフィン先生の代表作「バクフィンの冒険」はポケモンの世界を題材として描かれ、Karyu先生の代表作「ポケットモンスター神々の軌跡」は人間とポケモンの世界を題材として描かれています。

私が個人で感じたことはバクフィン先生の「バクフィンの冒険」では既存のルールをポケモン達だけの世界に組み込み、個性豊かなキャラクター達のエピソードなどが組み合わせられ、熱いバトルに加え笑いも涙もある感動的な超大作だと思っています。なにより伏線の引き方に私は本当に驚かされ、ますますお話にはまってしまいました。そしてバクフィンさんの生み出すキャラクター達全てに共感や愛着を持てる・・・本当に素晴らしいと思います。これからもどうストーリーが展開されていくのかが本当に楽しみです。

そしてKaryu先生の「ポケットモンスター神々の奇跡」はポケモントレーナーやコーディネーターという概念を基本にしてはいても、ポケモン世界に住む人間の日常に重きを置いてストーリーが展開されるといってちょっと違った着眼点が非常に面白い作品だと思っています。そして他では見ない構成とオリジナリティを含んだ設定は新たなポケモン小説のジャンルを作り上げたのではないかと思いました。完結、本当におめでとうございます。

稚拙な文章ではございましたが、ここまでお読みいただき誠にありがとうございます。

そしてバクフィン先生とKaryu先生の今後の執筆活動にますます目が離せません。

更には今後、「小説家になろう」でのポケモンのファンフィクション作品がどう進化していくのか私、ポケポケパンは非常に楽しみです。

今日は貴重なお時間を拝借し、感謝しています。

また機会がありましたらお会いできることを楽しみにしております。

(後書き)

今回はお二人にインタビューさせていただきました。

もし、他のポケモン作者様でインタビューを受けても良いとおっしゃる方がいましたらご連絡ください。

私もこういった形でしか今のところ自分の作品を残せないのだから、助かります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1897i/>

バクフーン先生とKaryu先生へのインタビュー記事

2010年10月9日20時11分発行